

CISV 日本協会 ニュース

CISV は、より公正で
平和な世界に向けて
行動する地球市民を
育てます。



japan

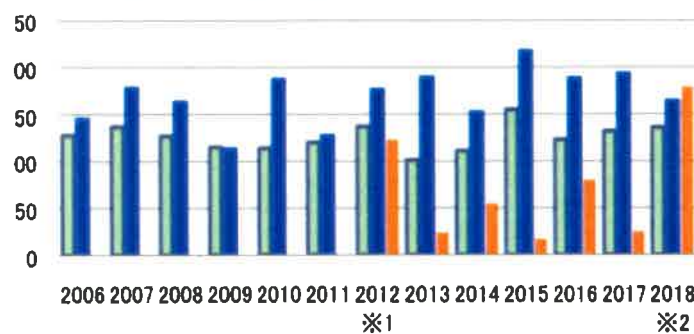
building global friendship

*CISV educates and inspires action
for a more just and peaceful world.*

間陽一郎新会長のもと、公益社団法人 CISV 日本協会の 2018 年度（2017 年 10 月 1 日～2018 年 9 月 30 日）の全ての事業は、無事に滞りな
終了しました。関東支部と東海支部はビレッジ、関西支部はユースミーティングを開催し、世界各地から 163 名を受け入れました。さらに
国際承認を受けたモザイク（コミュニティ活動）を関東支部で 3 件、九州支部で 1 件開催し累計で 179 名の参加者を得ました。日本国内で
CISV の 7 つの国際教育プログラムへの参加者は 342 名になりました。また、派遣の方はほぼ横ばいで、4 支部より合計 136 名を派遣しました。
具体的には漸減する中、東海支部の派遣数が増加しました。

派遣数と受入数の変遷

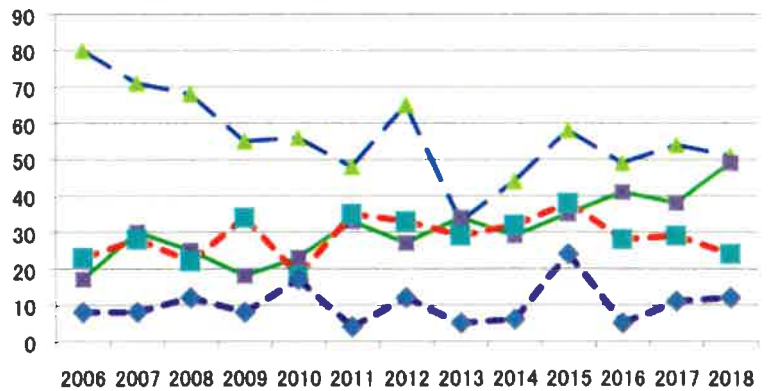
■派遣 ■受入 ■モザイク



※1 震災直後に STEP を年 6 回実施 ※2 九州が 2 回に分けて実施

支部別派遣者数の変遷

— 関東 — 東海 — 関西 — 九州



以上により、2018 年度の CISV 日本協会が CISV の 7 つの国際プログラムへの総参加者は 478 名となり、現在 CISV 国際で推進されている「2030
までに CISV に関わる人々の数を倍増しよう」という目標にも沿ったものとなっています。2018 年度で特記すべきは、ステップアップのト
ーナー研修とリスクマネージャー研修というふたつの国際研修を東京で開催したことでしょう。前者は、近年関心が高まっているステップアッ
(14/15 歳の 3 週間プログラム) 向けに国際から認定されなければならなくなったために開催されました。さらに、5 年前から指導者養成部
の中で「はすたす」として活動してきた、日本大会のスタッフ研修の実績が認められ、2019 年度よりスタッフ養成部会 (STC) としてスター
しました。4 週間のプログラムのためのリーダーとスタッフの募集、日本大会開催場所の確保など、解決困難な課題は多く、また、日本全
に内向き志向が高まる中で、このように活発な活動を続けられるのも、1848 名の正会員と 473 の準会員の皆さんの献身的なボランティア活
と、会員、同窓会、賛助企業の皆様より賜りましたご寄附のおかげと感謝申し上げます。



2018年度 日本大会&活動報告

関東ビレッジ

ディレクター 松原由季



8月3日から30日まで、長野は高遠にてビレッジを開催しました。13カ国、62人で4週間を過ごしました。

キャンプテーマは「だるま」です。何か壁にぶつかってもだるまのように倒れずに挑戦し続けてほしいという想いを込めて、スタッフ全員でこのテーマにしました。

参加者全員がこのテーマを大切に、多くのことをアクティビティや食事、一緒に過ごしている仲間から学んでくれたことを実感しています。また、今年のテーマであるダイバーシティも11歳ながらに感じ、文化の違いや言葉の違いを乗り越えていく様子も見られて、改めてCISVの良さに気付かされました。

始まる前は不安でいっぱいでしたが、リーダー、JCもほぼ経験者で協力的で本当に素晴らしいメンバーだったため、始まってすぐからBest Camp Everと言っていました。実際、キャンプ中は様々な問題もありましたが、キャンプを終えた今でもBest Campだという想いは変わりません。

また、個人的には毎日が驚きと発見の連続でした。海外に派遣されるとこの国は日本とはここが違うなど感じて帰国していますが、日本開催だと、ここが困ることなのか等、普段では気が付かないことに気づき、私自身も多くを学ぶことができました。

また、サイトの国立信州高遠青少年自然の家の方にご協力頂いて、願いを書いた風船を飛ばしたり、植樹をさせて頂いたりしました。今までのキャンプスタッフが築いてきた関係があったからこそできたものだと思います。ありがとうございます。

最後になりますが、準備段階から快く何でも引き受けて頂いた大会委員長の福德さんをはじめ、大会委員会の皆さま、サポートにお越し頂いたみなさま、このキャンプに関わって頂いた全ての方へ、この場をお借りして感謝申し上げます。

関西ユース ミーティング

ディレクター 堀江陽介



8月5日から8月12日にかけて、神戸でユースミーティングが開催されました。タイ、日本、ベトナム、ミャンマー、モンゴルから集まった40人が共同生活を送りました。

CISV国際の今年の共通テーマである「多様性」をベースとして、キャンプ毎にテーマを設定します。私たちは「あなた to わたし」にしました。たくさんの方がいる世界で、まずはあなたとわたしで発信しわかり合おう、そういった願いを込めています。

印象的な出来事がありました。ベトナムから参加した女の子が、キャンプの終盤に彼女の得意なピアノをみんなの前で披露したい、と申し出てくれたのです。参加国がアジアだけという事情もあって、とても静かな状態から始まったキャンプの中で、指名されて感想を言う場面でもためらっていた子が、自分から自身を表現してくれたのです。28日間もあるビレッジなど、他のCISVのキャンプに比べ8日間という圧倒的に短い時間の中で、参加者が新たな一歩を見せてくれるのはスタッフとしてとても幸せな事でした。

今回はキャンプスタッフをして実感したのは、大会委員の皆様をはじめ本当によくの方々のおかげでキャンプができているということです。参加者の時は表にでるスタッフしかわかりませんでしたが、送迎や飲み物はじめ、ピザなどの手続きなど、本当に幅広い分野で助けていただきました。本当にありがとうございました。

東海ビレッジ

スタッフ 大門由依



キャンプサイトはお寺と幼稚園で、どちらもはじめての場所でしたが、それぞれの環境を生かした経験をすることができました。お寺では坐禅を体験しました。普段はとても元気なキッズでしたので、静かにできるかなと心配しましたが、みんなとても静かに座禅をしました。幼稚園では広い場所でサッカーをしたり、走り回ったり、有松絞りも体験できました。

キャンプディレクターはインドネシアから来てくれた Novi。これまでにたくさんの CISV 経験を持っていましたので、彼女がいてくれたら大丈夫だという安心感がありました。九州、台湾、中国、東京、インドネシア、そして東海からの参加という「グローバルな」スタッフ構成ではありましたが、良いチームワークで1ヶ月を乗り切ることができました。

リーダーは1人を除いて全員 CISV 経験者でした。皆が自分の経験を他の人に押し付けることなく、あくまでも自分の意見としてシェアしていたことはとても良かったと思います。キッズはとてもパワフルで、自分も数年前はこうだったのかと思いました。大変な時でもキッズの笑顔を見ると疲れが吹っ飛ぶくらいにキッズと一緒にいるのは楽しかったです。

スタッフというのはキッズ、JC とはちがって、皆を楽しませるだけでなくキャンプ全体を支える縁の下の力持ち的な存在であるということを実感しました。自分が今まで参加してきたキャンプのスタッフは、そんなそぶりは見せなかったけれどきっと大変だったのだろうと思い、改めてありがたかったなあと感じました。

大会委員の方々も毎食ヘルパーとして入ってくださいました。毎日のサポートがなかったらこのキャンプは乗り切れていなかったと思います。

このキャンプが無事に終わられたのはここに述べた方々をはじめ、ビレッジを支えてくださった全ての方のご協力があったからです。本当にありがとうございました。



モザイク部会

モザイク部会長 坂田綾

ジュニア部会

ジュニア部会長 金谷玲子



モザイクは国内で開催される平和教育プロジェクトです。CISVの理念を共有できる他団体や個人とパートナーシップを結びプロジェクトを作り上げていきます。CISV 会員であれば何方でもディンクターになることができ、CISV 理念に沿った教育的なプロジェクトであると国際 CISV に承認されると、正式な CISV プログラムとしてプロジェクトを始動することが出来ます。

今年度は以下4つのプログラムが開催されました。

STEP(Smile Tohoku Empowerment Project: 東北の津波被災地を巡り、人々との交流を通して、防災や復興について学び、考える。17年11月関東支部主催)

Happy Family Everyday(子ども音楽会: 0才から3才までの子どもを持つ親子を対象にした音楽会。社会との繋がりが希薄になりがちな親子を対象に、ストレスなく楽しめる時間を提供する。13年5月関東支部主催)

Yummy Traditional Food(味噌作りを通して、日本の食文化を直し、子どもの日本食離れを防ぐ。家で味噌を発酵させ、2回1日のイベントに持ち寄ることで、子どもたちが日本食により親近感を持つようになった。18年6月9日九州支部主催)

木を見て森を見る(岩手プロジェクト: 岩手山間部の訪問や地域活性化に携わる方々との交流を通して地方の暮らしを学び、日本の未来について考える。18年9月関東支部主催)

モザイクは会員以外の方も参加出来る多くの方々に開かれたISVらしいプログラムです。来年度もわくわくするプロジェクトを企画していきますので、どうぞご期待ください!



私たちジュニア部会は高校生以上の CISVer で構成されており、各方面で JB 活動を行わせて頂いております。2018 年度 JB 活動として、まず国際行事として2月下旬にベトナム・ハノイにて TEA を開催しました。2018 年度 Sr. NJR のこうた(関東支部 福徳滉太)を中心に日本・香港・ベトナムから参加者を募り4泊5日間のワークショップや各国の文化紹介やエクスカージョンを行いました。また例年通り、国内4支部合同宿泊行事も開催し、3月下旬に東海支部にてウィンタースクールを、5月のGWには関東支部にてユースセミナーを、8月中旬に九州支部にてサマースクールを、8月下旬にジュニア部会主催の NJBC&W を開催致しました。ウィンタースクール、サマースクールはビレッジを4泊5日に短縮したような形で、それぞれテーマを設定し、キッズも交えてセミナーを行ったりアクティビティを行いました。1年、半年毎にしか会えないキッズもおり、キッズの成長や楽しむ姿を見ることが出来ます。ユースセミナーではテーマに沿ってスタッフがセッションを用意し、セッション内外で多くのディスカッションを行いました。参加者が高校生以上ということもありとても有意義な内容の濃いディスカッションを行うことが出来ました。

NJBC&W では高校生以上の JB が参加し、ジュニア部会構成員によるセッションや、2019 年度の JB についてのディスカッション、部会長選挙や Sr. NJR 選挙、2018 年度の振り返り等を行いました。これらの行事の写真は Facebook で公開も行なっており保護者の方も活動内容をご覧いただけます。是非一度ご覧下さい。また2018 年度より JB JAPAN 公式 Instagram を開設し、各支部 JB 行事の様子等を配信しております。是非フォローして下さい!(アカウント名は @jb_japan_official です)そのほかにもジュニア部会によるグッズ製作販売事業にて T シャツとオリジナルステッカーの製作販売を行い、多くの方にご購入頂きました。ありがとうございました。

各支部においては春のハイキング、初夏のハイキング、秋のハイキングを例年通り開催し、新旧の会員様の交流や派遣のないキッズが気軽に参加出来る場を設けました。また、各支部毎に約2ヶ月に1回会報誌を発行し、JB による活動報告も随時させて頂きました。これらの行事は2019 年度も引き続き行う予定です。是非お気軽にご参加下さい。

国際研修会議参加報告

グローバル カンファレンス

関西支部長 野上良治



2018年8月14日から19日までの6日間、オランダのフェルトホーフェンで開催されたグローバルカンファレンスに参加しました。グローバルカンファレンスはCISV全参加国の国代表、支部代表が集まる3年に1度の国際ワークショップです。JB対象のIJBCも同時開催され、参加国は69カ国中65カ国と素晴らしい参加率！参加人数も527人と盛大なものでした。

14日はウェルカムセッション。15日から18日の午前まで、午前と午後に2コマずつ、1コマには5～8のセッションがありました。夕食後にもいくつかのセッションや自発的なミーティングもあり、全日程分選ぶだけでも大変で、その内容はCISVの発展を考えるものだったり、効果的なムービーを作成するための技術的な内容だったり、多岐にわたりました。18日の午後はクロージングセッションからフェアウェルパーティで、最後はCISVerであるGaby Morenoのライブで盛り上がりました。毎日夕食前には11、12人の固定メンバーで1日を振り返るリフレクショングループの時間が設けられ、最低限他国の参加者と交流持つ仕組みがありました。

そして上記のような本来の話とは違いますが、参加者との交流がたくさんできたのがとても良かったです。食堂で対面の席に座って話しかけてくれてひとしきり盛り上げて、「いつでも声をかけてくれ」と言ってくれた超ナイスガイのイギリスのダン。日本人とわかると「祥太を知っているか？」と聞いてきて、IPPで一緒だったらしく祥太から日本語を教えてもらったと言って日本語で「俺ヘラルド！腹減った！」と連呼していたヘラルド。リフレクショングループが一緒に食事もよく一緒にするようになったチリのファビー。特にファビーは、南米のチリというとても遠くで一度も行くことはないだろうと思っていた土地に友だちができたことで、すごく南米を近くに感じるようになりました。こんな派遣キッズやバストの方から聞いていたようなCISVらしい体験が大人であってもできたことが本当に素敵だなと思います。今回のように日程的に参加可能なときはグローバルカンファレンスやAPRWなど国際プログラムに参加したいなと思います。

APRW

Asia Pacific Regional Workshop

日本協会理事・広報プロモーション部会長 鈴木勇貴



1年に1度開催される、アジア・パシフィック地域のCISVerが集まるお祭り。しばしばこう表現される、APRW (Asia Pacific Regional Workshop) というワークショップ/会議に参加してきた。開催地は毎年アジア・パシフィック地域の国々が持ち回りで、今年はフィリピンのセブ島開催。

APRWはキャンプ以上に国際色豊かであり、CISVを実感する場だ。「アジア・パシフィック地域」という何とも壮大な地域からCISVの仲間が集まる。実際にはこの地域以外からも会議やワークショップ参加者として、ヨーロッパや北中南米からの参加者もいて、非常に多国籍な仲間が総勢200名近く集まる場となった。

APRWの醍醐味は、「APAC地域にたくさんの気のおけない友人たちを持つこと」だ。非常に簡単な説明で恐縮だが、「世界中に素晴らしい友人を作る→国際理解・平和」という構図のCISV体験は何もキャンプだけで起こることではない。キャンプは子ども達がそれを学ぶ場ではあるが、APRWは大人がそんなCISVを大いに実感する場だ。さらに何度か行くようになると、同じように各国で長年CISV活動をやっている仲間との、1年に1度の大同窓会のようなになる。世界中の新たな友人について、彼らが非常に幅広いのは国籍だけでない。10代から70代までの世代や、JBからリーダー・スタッフ、親、各支部ボランティアといった様々なCISVの役割、それぞれが働く分野も本当に多様だ。

ではAPRWはCISVのこういった人向けなのか。大人のCISVerであれば、その門戸は誰にでも開かれている。「私は子どもをビレッジに送ったので、所属支部の委員会のボランティアをしているだけで、そんな国際会議は関係ない」と思っている方で、一度APRWに参加したら、親が子ども以上にCISVにハマってしまったという日本の方も実際に何人もいます。リーダーやスタッフをやっている人も、支部でボランティアをやっている親御さんも、APRWはちょっとわからず距離を感じる人は多いと思う。この文章を読んで少しでも興味をもったら、私でもいいし、周りでAPRWに参加した人の話を聞いて、新たなCISVの魅力を体験して欲しい。

特別インタビュー 宮崎幸雄氏 (CISV 日本協会理事)



<宮崎幸雄氏略歴>

宮崎幸雄 Yukio Miyazaki 現職：(公財) 日本 YMCA 同盟名誉主事、学校法人アジア学院評議員、学校法人恵泉学園委員、(公財) 公益法人協会評議員、(社) 青少年海外協力隊を育てる会顧問、(社) CISV 理事、在日本救世軍本営監事 略歴：1933年大阪に生まれる。関西大学英文科専攻後米国に留学、青少年教育を学び日本 YMCA に就職。1969年、世界 YMCA 難民救済事業ベトナム担当ディレクターとしてサイゴンに7年間在住し、ベトナム難民の定住と難民青少年の教育に当たる。8年間、スイス・ジュネーブにある世界 YMCA 同盟本部の難民事業の統括責任者として国連難民弁務官事務所 (UNHCR) との連絡担当、米国民間団体との交渉業務を担当する。1985年帰国後日本 YMCA 同盟常務理事・総主事 1998年3月定年退職。1998年よりロータリー米山記念奨学会事務局長 / 専務理事、アジア青少年団体協議会会長、国際協力機構 (JICA) 青年海外協力隊・技術専門委員 / 青年海外協力隊を育てる会副会長・顧問として現在に至る。

●宮崎さんのこれまでの経歴や CISV との関わりについて教えてください。

中学生の時に終戦を迎え、父親も関わっていた YMCA の活動に深く関わるようになり、大学卒業後職員になりました。その後アメリカに留学しましたが、当時はバスでも白人と黒人の乗る入口や場所が分かれているような、キング牧師登場前で人種差別がひどい時代でした。帰国後大阪・豊中市で YMCA の地域活動を担当。1960年後半、小学生の親の過保護が社会的問題となった時代に「体育の嫌いな子どもの体育教室」を考案して“行列のできる事業”となりました。

一方、体制反対の大学紛争がピークを迎えた時でした。体育指導をしていたリーダーの大学生から「宮崎さんはカッコいいことばかり言って、自分の手を汚していない」と吊るしあげにあって、自分がやるべきことは何かを真剣に考えました。挫折の時代でした。

1968年8月ベトナム戦争停戦協定が行われ、戦争から解放されたベトナム少年兵の社会復帰プログラム (UNHCR) が始まりました。私は妻にはっきり相談しないで「参加します！」と手を挙げて日本 YMCA からベトナムに派遣されました。ところが、ベトナム解放の戦争は終わるところか、ますます激しさを増し1975年3月まで戦争が続くことになりました。通算7年の間、難民救援事業でベトナムにどっぷり浸かることになりました。

当時、南ベトナム・サイゴン近くの村にいましたが、当初70団体あった国際救援団体は、1975年のサイゴン陥落時には17団体 (非参戦国) になりました。サイゴン陥落の当日は、非常に恐ろしくて、お酒を飲んでベッドに潜り、北ベトナム兵が南ベトナム軍本営に突入する状況を目の当たりにしました。北ベトナム政府との交渉を終えて、ジュネーブにある世界 YMCA 本部に帰任し、アジア、中東、アフリカの難民復興・持続的地域開発活動を担当して、1985年9月、日本に帰任しました。

CISV とは、留学生の支援事業で、今西淳子理事と出会ったのが縁で、その後2010年10月から理事を務めるようになりました。

●長年の YMCA 活動からみる CISV

CISV も YMCA も、基本的な志は同じだと思います。YMCA は幅広く色々な活動をしている一方で、CISV は IPP 活動などで外の団体との協働や、モザイク活動などでよりローカルな活動を活発にやっているイメージを持っています。

私が1つ非常に興味深いと思ったことは、CISV の研修でやった、インクルージョンを考えるワークショップです。組織として内輪の話などがわからずに、輪の外にいると感じる人を残さない、格差を広めない、といったことに取り組んでいるようですが、そういった SDGs でやっているようなことを、以前から取り組んでいることは、CISV の素晴らしい点だと思います。

● CISV へのメッセージ

長年ボランティア団体で仕事をする中で、最近考えさせられた言葉が、「かけた情けは水に流せ、受けた恩は石に刻め」です。これは今年山口県で行方不明の2歳児を救助した、スーパーボランティアである尾畠春夫さんの座右の銘です。彼のボランティアの考え方には、非常に感銘を受けました。CISV というボランティア組織でも、受けた恩を他者のために使うという気持ちを大切に活動して欲しいと思います。

CISV 日本協会ニュース第11号 (2018年12月)
編集責任者：鈴木 勇貴 | 編集レイアウト：西 恵里奈
発行：公益社団法人 CISV 日本協会 (公式ホームページ：cisv.jp)
〒162-0822 東京都新宿区下宮比町 2-28-218
Tel : 03-5261-8560 | Fax : 03-5261-8540
Email : japan@cisv.org | LINE ID : @cisv
Facebook : www.facebook.com/cisvjapan